

令和元年度 学校評価

兵庫県立三田西陵高等学校

| 教育目標                                    |  | 校訓「自主・創造・飛翔」の下、教育活動全般を通じて、生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばし自立的に生きる力を育成する。 |   |   |  |
|---|--|---|---|---|--|
| 重点目標                                    | 実践目標   | 自己評価<br>(3段階評価)   | 自己評価(達成状況)  | 学校関係者評価(意見)   | 改善の方法  |
| 学力の3要素の習得<br>主体的・対話的で深い学<br>び<br>への授業改善 | 1 指導と評価の一体化<br>年間計画や教科の目標、習得すべき学習<br>内容、評価についてシラバス等を用いて、<br>生徒に説明し計画的に教科指導をする。<br>2 学力の3要素の習得を目標とした授業<br>改善 学力の3要素(基礎的な知識・技<br>能、思考力・判断力・表現力等の能力、主<br>体的に学習に取り組む態度)の習得を目<br>指し、生徒同士の協働的な作業や対話を<br>目指し、生徒同士の協働的な作業や対話<br>を多く取り入れた授業を展開し、生徒が主<br>体的に学ぶ姿勢を醸成する。各教科<br>の学習活動から自己の考えを形成し、課<br>題を発見・解決する深い学びにつなげる。<br>3 大学入試改革を念頭に置いた進路指<br>導 大学入試改革について各種の情報<br>を収集し、研修会等で得た情報を職員で共<br>有する。 | B   | 1 指導と評価の一体化<br>学習と評価の一体化についてほぼ達成されている。授業内<br>容、学習計画、評価の観点、評価方法についても生徒が理解<br>しやすいシラバスになってきている。学習環境については、職<br>員、生徒アンケートともに落ち着いた環境で学習できていると<br>感じており、授業見学をされた学校評議員からも授業の雰囲気<br>について高い評価を得ている。<br>2 学力の3要素を目標とした授業改善<br>文部科学省が提唱する教科横断的学習や探究型授業を実<br>践するための教科間の連携や活動は、教員が情報交換をし<br>ながら実践を進めており、学校全体での取組の状況は向上し<br>ている。<br>3 大学入試改革を念頭に置いた進路指導<br>生徒のキャリア形成の取り組みについては、進路講演会、進<br>路相談、個人面談等の指導について丁寧で充実しており、生<br>徒の満足度も高い。職員の大学入試改革に関する関心も高<br>まり、進路研修会や進路に関する情報収集に努める教員が<br>増えている。 | 1 指導と評価の一体化<br>学習と評価の一体化については、実現<br>してきているとの報告をうけて好ましい<br>状況と理解している。一層のシラバスと<br>授業実践の充実を期待している。<br>2 授業改善<br>11月の公開授業週間では、ICTを活用し<br>たおもしろい授業を見学できた。生徒の<br>主体的な活動の場面も多くみられ、落ち<br>着いた授業がなされていた。生徒のア<br>ンケート結果でも生徒の授業にたいする<br>満足度は高かった。<br>3 進路指導<br>進路指導に関する取り組みは保護者や<br>地域の人々の関心も高い。さらなる向上<br>を目指してほしい。 | 1 指導と評価の一体化<br>シラバスでの計画に沿った授業を一層<br>充実させ、生徒が計画性をもって授業<br>や家庭学習に励めるように指導する。そ<br>して生徒の学習意欲を一層向上させる<br>ように努める。<br>2 授業改善<br>職員や生徒のアンケート結果を真摯に<br>受け止め、最新の情報を入手するととも<br>に関係部主催の職員研修会で21世紀<br>型授業の定着に努める。<br>3 進路指導<br>Class等のツール活用し日々の生徒の<br>キャリア形成の支援をし、効果的に充<br>実した進路指導を推進する。  |
| 部活動の活性化                                 | 1 部活動の活性化<br>部活動指導において生徒や保護者の要望<br>を取り入れ、新しい試みを実施すること<br>で、生徒、保護者と職員が協働して活性化<br>に取り組む。<br>2 生徒の成長<br>部活動を通して生徒の技能や人間的な成<br>長を図る。   | B   | 1 部活動の活性化<br>部活動の加入率が80%を超える本校では、日々の活動が活<br>発に行われ、運動部では野球部、男子バレーボール部の躍<br>進が目覚ましいものがある。また、他の運動部や文化部でも生<br>徒同士が良い刺激を互いに与えあひながら活動できている。<br>2 生徒の成長<br>部活動を通しての生徒の人間的な成長については、数值的<br>に表しにくい面があるが、充実感は生徒、保護者ともに高く感<br>じている。   | 1 部活動の活性化<br>放課後の様子を見れば、部活動の活況<br>は理解できる。元気で力強い生徒の育<br>成に今後とも邁進してほしい。<br>2 生徒の成長<br>職員としては部活動を通しての生徒の<br>人間的な成長については、できていると<br>思う。通学途中でも運動部の生徒はよく<br>挨拶してくれている。良い傾向だと感じ<br>ている。   | 1 部活動の活性化<br>今後とも部活動の加入率の高さを維持<br>することにとまらず、内容的な充実を<br>図りたい。本年度は部活動体験が中心<br>のオープン・ハイスクールを実施して好<br>評であった。今後より充実させて継続<br>していきたい。<br>2 生徒の成長<br>保護者生徒ともに部活動が挨拶等の生<br>活規律に好影響を与えていることは実<br>感している。今後とも生徒の生活をはじ<br>め人格陶冶に資するよう努める。   |
| 信頼される人づくり                               | 1 基本的な生活習慣の確立<br>挨拶や時間の管理を生徒自身が主体的に<br>実践する。<br>2 人権意識の涵養 いじめのない学校<br>生徒に人権に関する意識を涵養し、いじ<br>めのない安全で安心な学校づくりを努める。<br>3 ボランティア活動での自尊感情の涵養<br>地域のボランティア清掃をはじめ、被災地<br>支援や募金活動を通して、社会における自<br>分の役割や自尊感情を育成する。   | A   | 1 基本的な生活習慣の確立<br>挨拶や時間の管理については、生徒、保護者ともに自立して<br>実践できていると感じており、学校としても落ち着いた雰囲気<br>で教育活動が実践できていると評価している。<br>2 人権意識の涵養 いじめのない学校<br>いじめアンケートの各学期での実施に努めているが、今年度<br>はいじめ事案が発生しており、今後ともさらには生徒に人権に関<br>する意識を涵養し、いじめのない安全で安心な学校づくり<br>に努めていかねばならないと感じている。<br>3 ボランティア活動での自尊感情の涵養<br>ボランティア活動については、生徒会役員だけでなく希望して<br>参加する生徒もあり、昨年度より生徒のボランティア活動に関<br>する意識が高まっている。   | 1 基本的な生活習慣の確立<br>挨拶は地域の方々にもよくできている。<br>安定した家庭環境の生徒が多く、大人し<br>く落ち着いた感じの生徒が多いと感じて<br>いる。<br>2 人権意識、いじめのない学校<br>いじめ問題への対応も適切に行われて<br>いること、LGBTの生徒への対応も適切<br>に行われていることを知り、うれしく思<br>う。<br>3 ボランティア活動<br>地域の防災訓練への参加、コミュニテ<br>ィハウスの行事への参加、清掃活動等、<br>感謝しています。。   | 1 基本的な生活習慣の確立<br>生徒、保護者ともに基本的な生活習慣<br>の確立については自信を持っており、良<br>い傾向を継続するための生徒理解に基<br>づいた指導を徹底していく。<br>2 人権意識、いじめのない学校<br>いじめ問題はすべての学校で起こりう<br>るという認識を職員全員が常に持ち、適切<br>に対応していく。LGBTにとまらず特別<br>な支援が必要な生徒への対応チーム<br>も設置して対応している。<br>3 ボランティア活動<br>被災地支援は今年度初めての実施で<br>あった。今後も継続していく。地域と連携<br>した地道な活動も継続していきることによ<br>って、生徒の地域(ふるさと)に対する愛情<br>を涵養していく。 |
| その他                                     | 1 教育活動の広報活動<br>本校の教育活動をHPやメディアを通して広<br>く広報する。<br>2 業務改善 業務の活性化と適正化<br>職員組織が機能的に活動し、業務の効率<br>化を通して勤務の適正化を実現する。<br>3 生徒支援の充実<br>スクールカウンセラーとの連携、職員研修<br>を通して個々の生徒の抱える問題に個別<br>に適切な支援を実施する。  | B   | 1 教育活動の広報活動<br>広報誌「西陵」の内容を見直し、より幅広い内容の広報がで<br>きるようになった。また、HP更新機会も増えて一層広報は充<br>実した。メール送信サービスを導入し、スムーズに保護者や<br>生徒に情報提供ができた。<br>2 業務改善 業務の活性化と適正化<br>業務の効率化と勤務の適正化を目指して、業務の見直しや<br>変更を順次実施している。本年度より校務支援システムが<br>導入され、業務改善が進んだ。<br>3 生徒支援の充実<br>スクールカウンセラーとの連携、「いじめ未然防止プログラム」<br>「ユニバーサルデザインに基づいた授業づくり」研修を活用し<br>て生徒理解に基づいた支援が進んだ。   | 1 教育活動の広報活動<br>広報活動の進展が見られた。今後とも<br>広報活動を推進してほしい。<br>2 業務改善<br>勤務の適正化は国の急務と理解してい<br>る。一層推進して欲しい。<br>3 生徒支援の充実<br>生徒支援のための研修会が校内で多く<br>実施されていることを知った。一層の充<br>実を望む。   | 1 教育活動の広報活動<br>HPや西陵通信の充実を図り、広報活動<br>を一層推進する。メール送信サービスの<br>活用によってより保護者との連携を深め<br>ていきたい。今後とも広報活動を推進す<br>ることで地域に開かれた学校を推進しま<br>す。<br>2 業務改善<br>生徒を指導する時間の確保と内容の充<br>実を目指して業務改善にさらに努めま<br>す。<br>3 生徒支援の充実<br>校内研修の充実と校外での研修の報告<br>会の実施等、生徒支援につながる努力<br>を実施します。  |

評価基準

- 1: 成果がなかった 2: あまり成果がなかった 3: やや成果があった 4: 成果があった  
1: あてはまらない 2: あまりあてはまらない 3: ややあてはまる 4: よくあてはまる

評価平均

- 3~4 A  
2~2.99 B  
1~1.99 C